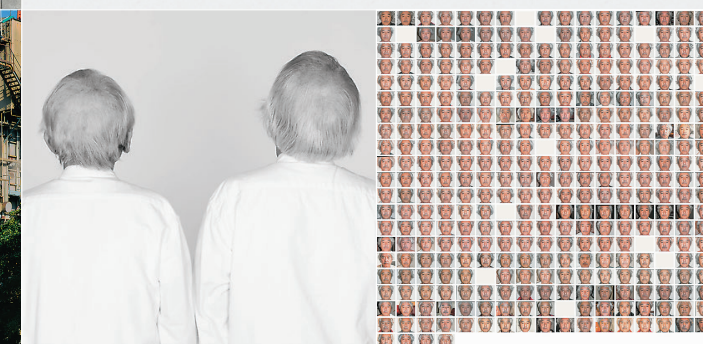
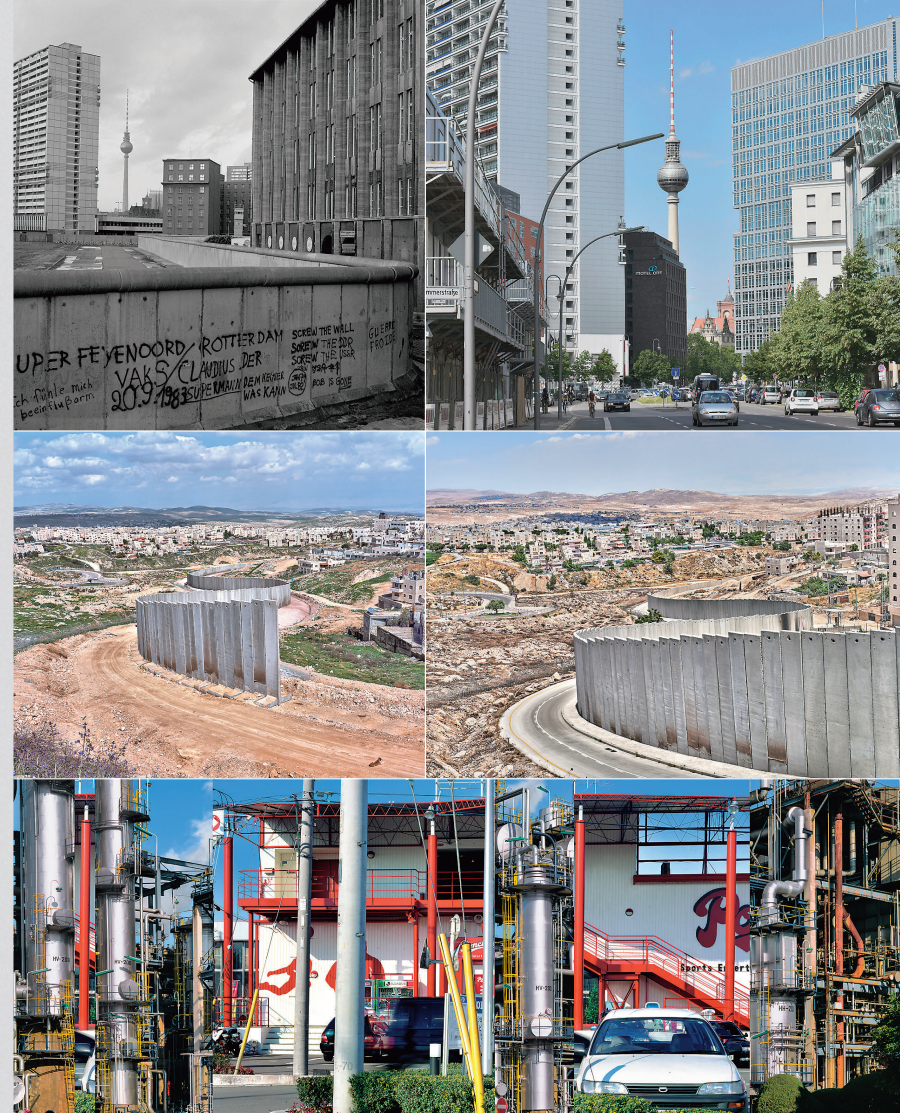




土田ヒロミ

記憶と記録

10.24 sat. — 12.13 sun. 開館時間＝10:00—17:00（最終入場 16:30）
休館日＝月曜日（祝日の場合開館・翌平日休館）

特別協力＝Office Nirvana 土田ヒロミ キヤノンマーケティングジャパン株式会社 広島平和記念資料館 公益財団法人 香雪美術館 東京総合写真専門学校 ふげん社

Kanaz Forest of Creation ARTCORE

Art Document Series: 30th Anniversary Exhibition | Art Document 2026 |

金津創作の森では、「森はあらゆる芸術の源である」という故・針生一郎初代館長の基本理念のもと、自然と人間の共生をアートで表現する作家をアートドキュメントシリーズとして紹介してきました。30回目となる今回は、福井県(南越前町)出身の写真家・土田ヒロミを招聘し、故郷において集大成となる展覧会を開催します。現代日本の構造を鋭く捉えた「ウロボロスのゆくえ」をはじめ、「ヒロシマ」、「ベルリン」、「エルサレム」のシリーズを中心に構成します。さらに、老いの変化を可視化した「Aging」や双子をテーマにしたシリーズを加え、作品を通して社会性と土田の身体(生)が交差し共鳴する、貴重な展観を創出します。また、双子の兄である七宝焼作家の土田善太郎の作品も紹介し、双子それぞれの異なる表現を通した芸術的対話もご覧いただけます。

ウロボロスのゆくえ Ouroboros 撮影:〈産業考古学〉1991～2004年、〈Fake Scape〉1993年～2000年

1991年に開始した〈産業考古学〉と、1993年からの〈Fake Scape〉は、日本の高度経済成長を支えた基幹産業の生産現場と、大都市郊外のロードサイドに広がる消費現場を並行して記録したシリーズ。2021年に両シリーズを混成し、消費が生産を凌駕して飲み込みながら循環しているかのような1990年代日本の社会文化的状況を「ウロボロス」のイメージに見立てた。



1. 《ウロボロスのゆくえ》カラージュA 2021年 2. 《ウロボロスのゆくえ》カラージュB 2021年



2

ヒロシマ・コレクション Hiroshima Collection 撮影:1982年／1995年／2018年／2023～24年

「ヒロシマ三部作」人(被爆者)・風景(被爆遺跡)に続く「物」の記録として、広島平和記念資料館所蔵の被爆資料を撮影。作家の恣意的表現性を排し即物的に撮影することで、1945年の日常と21世紀の現在の日常とのつながりを示す表現。写真が「現在」を、テキストが「過去」を担うことで一つのイメージを構成し、写真表現の限界を超える物語のリアリティという視覚認識を生み出すことを試みている。1980年代に開始した本シリーズは、現在まで一貫したコンセプトのもと継続されている。



〈ヒロシマ・コレクション〉シリーズ 1. 〈サイコロ 寄贈者:榎野正記 広島平和記念資料館所蔵〉2024年 2. 〈学生服 寄贈者:釜本哲一 広島平和記念資料館所蔵〉2024年 3. 〈ワンピース 寄贈者:高瀬二葉 広島平和記念資料館所蔵〉2018年 4. 〈看護師の制服 寄贈者:大井松恵 広島平和記念資料館所蔵〉2018年 5. 〈弁当箱 寄贈者:渡辺茂 広島平和記念資料館所蔵〉1982年 6. 〈懐中時計 寄贈者:二川一夫 広島平和記念資料館所蔵〉1982年

関連プログラム※都合により日時・内容等の変更、中止になる場合があります。予めご了承ください。

◎10月24日(土)《対談》土田ヒロミ×伊藤俊治 美術史家・東京藝術大学名誉教授
14:00～15:30(開場13:30)／会場:美術館 アートコアミュージアム2／料金:要展覧会観覧券／定員:70人・全席自由

◎10月25日(日) 土田ヒロミによるギャラリートーク
14:00～14:30／会場:美術館 アートコアミュージアム1／料金:要展覧会観覧券

◎11月22日(日) 土田善太郎 七宝焼ワークショップ
「クリスマスツリーのピンブローチづくり」

[午前の部] 10:00～12:00 [午後の部] 14:00～16:00
会場:創作工房 創作学習室／講師:土田善太郎 七宝焼作家
料金:4,500円(箱付)／定員:午前・午後の部 各10人・先着申込順

※作品は持ち帰り可
※お申し込みは、お電話(金津創作の森美術館 0776-73-7800)、または右の参加申込みフォームからお申込みください。(申込開始10月25日 10:00～)



※作品例

◎会期中、土田善太郎の七宝作品を展示・販売します。 会場:美術館アートコア ギャラリー



〈土田善太郎 略歴〉1939年福井県生まれ。1964年福井大学工学部卒業。大阪の貿易商社勤務時代に七宝焼と出会い、1966年より独学で制作を始める。1967年、兵庫県西宮市で七宝工房「アングルゼット」を主宰。国際七宝展への出展・入賞を経て、大阪・京都を中心に個展や百貨店での展示販売を行う。2021年には作家生活55年記念個展を開催し、現在も制作を続けている。

あわら市民大学講座
お申し込みフォーム

土田善太郎
七宝焼ワークショップ
お申し込みフォーム

ベルリン Berlin

撮影:1983～2019年

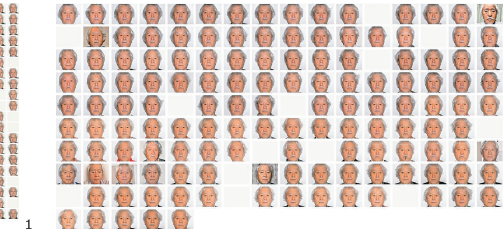
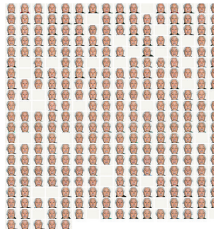
〈ヒロシマ〉を相対化するため、ベルリンを東西に分断していた壁を撮影することを決意、しかし1989年に壁崩壊。消失した壁の痕跡が残る街角を定点観測(1999-2019)し、冷戦の記憶が今も刻まれた風景を記録。過去・現在の時間を重ね合わせることで、現在に存在する過去の時間や、現在に潜む未来への予兆を浮かび上がらせようとする方法論。現在という視点から記憶と歴史を往還し、時間の重層的な構造を提示する試みである。



〈ベルリン〉シリーズ 1. テレビ塔、ベルリンの壁《1983》1983年 2. テレビ塔《2019》2019年 3.4.5.すべてブランデンブルク門《1983》1983年

Aging 撮影:1986年～現在

自分自身の顔を毎日撮影し続けるシリーズ。1986年、老化への気づきを契機に撮影を開始。現在に至るまで40年間で12,000枚を超える記録を蓄積してきた。「老い」という緩慢な変化を一刻の写真の集積によって可視化し、「生命とは何か」「時間とは何か」を問い続ける試み。セルフポートレートによる自身の定点観測であるとともに、膨大な顔の集積(ビッグデータ)による写真表現の可能性を探求している。



〈Aging〉シリーズ
1. 〈Aging 2021〉2021年
2. 〈Aging 2015〉(部分) 2015年

双子 Twins 撮影:1939年～現在

自身が一卵性双生児であるという事実は、自己と他者の境界や自己同一性を考える上での重要な資質として、アイデンティティの形成そして写真家としての表現に大きな影響を与えてきたと考えられる。本シリーズでは、一卵性双生児の自己と他者の曖昧な境界や相似性を軸に、誕生から死へとつながる命の営みをテーマとしている。また、AIを用いた自身の顔のシミュレーションを試みること、時間を超えて現出される写真表現の両義性を思考する。



〈双子〉シリーズ 1. 〈2025〉2025年 2. 〈2025〉2025年 3. 〈1939〉1939年 4. 〈合わせ鏡〉1975年

© Hiromi Tsuchida

土田ヒロミ 記憶と記録 ―― ヒロシマ・ベルリン・エルサレム・私 ――

金津創作の森美術館
KANAZAWA FOREST of CREATION ART MUSEUM

〒919-0806 福井県あわら市宮谷57-2-19
TEL.0776-73-7800 FAX.0776-73-7805

Instagram Facebook X sosaku.jp

最新情報・詳細は
展覧会公式サイトをご覧ください。

アクセス ●北陸自動車道金津ICから車で約5分
●JR芦原温泉駅からタクシーで約10分

